

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	久行 敏彦
主な担当科目	作曲・編曲法Ⅰ,作曲Ⅱ①,作曲
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	着任2年目、昨年度担当した授業を継続して担当するということで、基本的には各科目ごとに昨年度の内容を踏襲、授業回数が半期90分15回が100分14回に変更になったことについてはそれぞれの科目で微調整をする。難易度については聴音・視唱ソルフェージュについては新たに視唱が加わることで、それへの対応は十分吟味する。聴音・視唱ソルフェージュ以外については昨年度の難易度を踏襲する。個人レッスンについては引き続き個別に誠実に対応する。
2025年の教育に関する自己評価	上記に掲げた授業に臨む姿勢について、ほぼ達成できたと思う。聴音・視唱ソルフェージュについて、昨年よりさらに上級レベルのクラスを担当したが、学生のニーズにほぼ応えられたのではと考えている。副科作曲について、60歳を超えた学生が2人新たに加わったが、この二人についてはどのような質問に対しても「〇〇を調べてみましょう」と要求するのではなく、即座に、最短距離で回答をすることを心掛けた。これは、すでに「時間をかけて調べることの尊さ」を40年前に会得している人たちであるからである。これはお二人にはとても感謝された。
2025年のFD活動に関する自己評価	2025年度はセメスター制導入、半期90分15回から100分14回への移行ということで、ソルフェージュ部会ではそれに伴い求められる工夫についていろいろ試行錯誤したが、特に問題なく春学期を終え、秋学期もあと2回を残すのみとなり無事着地できるのではないかと考えている。それに対し、レッスン、特に1年次の作曲実技について、半期14回のレッスンである規模感を持つ作品を仕上げ、提出させる困難さに直面した。これが2年次、3年次と進むにつれ、書きたい作品の規模も編成も大きくなってくであろうことを鑑みると、今後の指導の成果を考えたときに、半期で一作品を仕上げさせることの意義をまだ見いだせずにいる。今後の検討課題である。
授業改善のために取り入れた研修内容	2024年度まではソルフェージュ授業において聴音と視唱を2クラスを隔週で実施し、そのうちの視唱は別の教員が担当し、わたくしは聴音のみを担当するスタンスであったが、2025年度からはすべての教員が1回の授業の中で聴音と視唱を実施するスタンスになったため、さまざまな視唱の教材の検討をした。その結果、自作の教材とフランス・パリ音楽院教員の作曲による教材とを交互に実施することに決定。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3677 教員名:久行 敏彦

1)アンケート結果に対する所見

設問に対する数値は全て 3 点以上であったので学生の満足度には問題がないものと認識して良いと考えている。

2)要望への対応・改善方策

要望として、「課題の提出率も成績の判断材料としてほしい」というのがあったが、学期末には課題提出を課しており、毎回の授業での添削、授業時に各机を見回るなどの対応の中でそれぞれの学生の到達度、理解度は把握できているのでこの要望には応える必要はないと判断している。

3)今後の課題

この学生たちにこのような授業をすればこのような反応が返ってくるのは自然な流れであろう、という感想は毎年のことであるが、気を緩めることなく「進みつつある教師のみ人を教える資格あり」という考えで教育に対峙したいと考えている。

以 上